

BS1スペシャル

鳴門の第九

歌声がつなぐ日独の100年

放送日：2018年8月4日 放送時間：49分

対象校種 小学校高学年 中学校 高校

対象教科 道徳 総合学習 音楽 社会

この番組の良さ



● 時代を超えてつながる日独の絆

1918年、徳島県鳴門の地でアジアで初めて、ベートーヴェンの交響曲「第九」が演奏されました。それは、第一次大戦で板東俘虜収容所にいたドイツ兵捕虜たちの楽団によるものでした。収容所の松江豊寿所長は、捕虜を人道的に扱うという信念を持っていました。以来「第九」を通して日独の絆が生まれ、100年目となる2018年には、捕虜と所長の子孫が鳴門で出会いました。「すべての人は兄弟」の歌詞を体現する日独の交流を描きます。

● 感動的なストーリー

本番組では、100年の時を超え、俘虜収容所の所長の子孫とドイツ兵捕虜の子孫が会うストーリーや、国に帰ることが叶わなかったドイツ兵捕虜の墓を守る日本人の子孫とドイツ兵捕虜の子孫が対面するストーリーなど、「第九」を通してつながる日独の絆が描かれています。どの国の人とも同じ人間として尊重し合い、差別や偏見をもたずに公正、公平に接することの大切さを感じるとともに、世界の平和と人類の発展に寄与しようとする態度を養う教材として活用することができます。

番組活用のポイント

● 自分にもできる国際親善を考える

グローバル化が進展する中、国際理解や国際親善は重要な課題になっています。これらの課題に対応できるように、他国の人々や文化に対する理解とこれらを尊重する態度を養うことが求められています。毎日、多くのメディアで世界中の環境や資源、食糧、健康などに関するニュースが飛び交い、他国の芸術や文化、他国の人々と接する機会も増えてきている中、国際親善の態度を養っていくためには、子供たちが生活の中で自分事としてとらえ、自分にできることを考えられるようにしていくことが大切です。

本番組は、幅広い学年の道徳の学習において、国際理解・国際親善の項目を扱うときに活用することができます。その場合、国際親善は自分とは遠い世界のものではなく、人と人とのつながりや身近な交流からスタートできるものであるととらえることが大切です。そのため、本番組で描かれる日本とドイツの交流の様子を、国や文化が異なる人々が、絆を大事にしながら未来につなげようとする尊いものであると考えられるようにしていくとよいでしょう。

小学校で活用する場合は、社会科で第一次大戦の学習をした後に扱うなど、時代背景や用語についての配慮が必要です。

● 横断的・総合的な課題として国際理解を扱う

小中学校の総合的な学習の時間や、高校の総合的な探究の時間に、横断的・総合的な課題として国際理解を扱うことは、持続可能な社会の実現に向けて、大変意義のあることです。国際理解をテーマに探究的な学習を進めていくと、世の中には様々な価値観や貧富の差、差別や偏見などが存在することに気付き、国際的に協調しながら課題に取り組んでいくことの難しさに直面することが多くあります。

本番組を視聴することで、人と人が公正、公平に接することの大切さや、多様性を尊重しながら国際理解を進めていくことの大切さを考えるきっかけになるでしょう。



執筆者

沼津市教育委員会

指導主事

加納 真

学習展開例

対象校種 小学校高学年 中学校 高校
対象教科 道徳 総合学習 音楽 社会

国際親善を進めるには

[授業時間 45分] 部分視聴

児童生徒の思考と活動の流れ	教師の支援と評価
<p>国連などの国際機関 政府や政治家 NPOなどの組織や団体 音楽家やアスリート</p> <p>国際的に活動したり、世界で活躍したりしている人や団体が多い</p> <p>知らない 普通の人に見える 有名な人なの？</p> <p>高橋さんはどのように国際親善を進めたのだろうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事前にアンケート調査を行った上で、国際親善を進めるのは誰なのか問う。 国際親善は、自分たちとは遠い世界の誰かが進めているという印象が強いことを確認し合う。 高橋敏夫さんの写真を提示し、子供たちが予想したような組織や機関などに属する人でない人が今日の主人公であることを伝え、番組の視聴につなげる。
<p>番組部分視聴(冒頭～23分52秒)</p> 	<p>16分46秒の画像</p> 
<p>マリオンさんの思い</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が生まれてきたのも、松江さんのおかげだ 祖父たちの思いや日本とドイツの絆を、私たちもつなぐことができよかったです <p>シュテファンさんの気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> 高橋さんに会えてよかった 慰霊碑を守ってきてくれてありがとう 私たちは、力を合わせていかなければならない 	<ul style="list-style-type: none"> 映像や登場人物の言葉、字幕などに集中するために、メモは取らないようにしたい。 番組視聴後、「彼は私にとって英雄ですと語ったマリオンさんの思い」や「高橋さんに対面することができたシュテファンさんの気持ち」について話し合い、国際親善の本質を考えられるようする。
<p>国際親善は、誰がどのように進めていくものなのだろうか？</p> <p>鳴門とドイツの人たちのように、交流から始めればよい</p> <p>国や文化が違っても、力を合わせることが大切</p> <p>相手の気持ちを大切に、差別や偏見をもたないようにしたい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国際親善は、誰がどのように進めていくものなのかを改めて問う。話し合いが深まったら、そのために必要と考える生き方についてノートにまとめるように促す。
<p>国際交流や国際理解、国際親善は特別なことではない</p> <p>国際理解や国際親善は、人と人とのつながりや、身近な交流、コミュニケーションなどから進めていけばよい。</p> <p>どの国の人とも同じ人間として尊重し合い、差別や偏見をもたずに公正、公平に接しながら、相手のことを理解し交流を進めたい。</p>	<p>【道徳的意欲と態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国の人々や文化を大切にする心もち、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努めようとする気持ちを持つことができたか。(国際理解・国際親善)
<p>番組の続きを見たい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子供の求めに応じ、番組の後半を視聴する時間を改めて設けたい。

ともに生きる